

毎日新聞社主催

毎日21世紀フォーラム

(3月4日開催)

去る3月4日、小林喜光代表幹事が大阪市で開催された異業種交流組織「毎日21世紀フォーラム」第150回記念例会にて「Japan 2.0 ― データ駆動型社会への展望 ―」と題して講演を行った。当日は約220人の企業経営者等が出席した。

講演では、「過去の延長線上に未来はない」と述べ、日本の財政健全化、人口減少・少子高齢化、グローバルには地球環境問題などの諸課題に危機意識を高めるべきことを強調し、「いまや経済界が具体的な実行に移していくフェーズに入っている。30年、50年先を見据え、次世代に引き継げる持続可能な社会を構築していかなければならない」と語った。

さらに今年11月に発表する「Japan 2.0」で日本が目指すべき将来ビジョンを提示する予定であることを述べ、「情報技術の革新により新しい次元の第4次産業革命が2020年代前半にやってくる。国際競争力を高めるためにも日本企業の統合や再編を進め、先端技術をテコに経営を刷新すべく、経営者は『心の内なる岩盤』を打ち砕かねばならない」と訴えた。



写真：毎日新聞社提供